

25年度 自立支援協議会議事録

会議	部会名	第1回 グループホーム・ケアホーム 部会	参加者数	40人	会場	福祉まちづくりセンター 2F 大会議室
	日時	25年 8月 27日(火) 13:30 ~ 15:45				
主 題 マ	<p>1 ミニシンポジウム : 「グループホームをどうやってつくったらいいの？」</p> <p>2 その他</p>					
主 な 意 見 な ど	<p>1 について(進行:きらりあ 埋橋生活支援ワーカー)</p> <p>シンポジスト(5名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西駒郷 塩沢氏、NPO法人はらっぱの会 井上氏、はらっぱの会グループホーム入居者2名、長野県障害者支援課施設支援係 内川氏 <p>シンポジウム概要</p> <p>(1)シンポジスト自己紹介</p> <p>(2)長野県社会福祉事業団のグループホームづくりについて(塩沢氏)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成15年策定の「西駒郷基本構想」の中で、入所者の地域生活移行を推進することとなり、事業団が中心となって、1年に2~3か所のペースで、圏域にグループホームを整備してきた。 ・グループホーム建設には地域の理解も大切。区会等に何度も足を運び、丁寧に説明、理解を求めた。 ・資金面では、当時、県独自基準で建設費用の3分の2(上限あり)を補助してもらえた。(現在、別基準) <p>(3)はらっぱの会のグループホームづくりについて(井上氏)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成5年1月、県単事業を活用し、精神障害者のグループホームを立ち上げ、世話人となった。 ・資金面では、苦勞した。バザーで費用を捻出したり、区費免除を区長さんをお願いしたりした。 ・グループホーム立ち上げでは、場所と入居者、世話人の確保を同時進行で行わなければならないのが難しいところ。また、世話人は入居者と本当に付き合っていきたいと思う気持ちも大切である。 <p>(4)グループホームの良い面、悪い面について(グループホーム入居者より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループホームでは、自分のできないところを補ってもらえるのがよいところ。ただ人間関係は大変。 <p>(5)県内のグループホームの現状と整備について(内川氏)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住居数、定員数ともに右肩上がりで推移(県全体、上伊那圏域とも)。 ・グループホーム建設に地域住民の同意は必ずしも必要ではない。反対は差別にあたるとの障害者差別禁止法附帯決議もある。調整がつかなければ自治体に相談すれば、自治体で調整を行ってもらえる。 ・補助制度については、新築1900万円、改修750万円を上限とする補助が受けられる。 <p>(6)これからの生活ビジョンについて(グループホーム入居者より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同生活はやはり大変。できれば相方を見つけて地域に相方と一緒に住んでみたいという思いがある。 <p>(7)これからのグループホームの課題や方向性について(塩沢氏・井上氏)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設から出られた現状に満足している方が多い。今後、生活の質をどう高めていくかが課題である。 ・引きこもりの方がサポートを受けながら独り暮らしできるホームや、病気の情報提供など専門的に関わる方も必要になるかもしれない。ホームには安全・安心な生活と次へのステップという役割がある。 <p>(8)グループホーム・ケアホームの一元化について(内川氏)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者の高齢化・重度化に伴い、介護が必要となった場合でも、本人の希望でグループホームを利用可能とするのが一元化の趣旨。 ・現在のケアホームのように生活支援員を雇うことも、外部居宅事業者と連携して対応することも可能。 ・26年4月からは、例えば、社協のヘルパーが入って、グループホームを支援することも可能となる。グループホーム近くのアパートを借り、1人暮らしを体験できるサテライト型グループホームも可能となる。 ・詳しい情報が入り次第、説明会の開催や情報提供等を行っていく予定である。 <p>(9)グループホームの防火安全対策と指定基準条例について(内川氏)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防火安全対策の徹底については、県からも通知しているところ。実地指導でも重点的に見ている。 ・事業所・施設の指定基準、最低基準については、25年4月より県条例で定めることとなった。 ・県独自基準として、グループホーム関係では、入所施設化の防止に向け、入所施設、病院に加え、通所施設も含めた敷地外に設置することとなっているので、ご留意願いたい。 <p>2 について</p> <p>(1)聴覚障害者協会より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害者のためのグループホームを南箕輪村に作る準備を現在進めているところである。 <p>(2)パンセの会より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重度心身障害者のグループホームを考えているが、改修費用などが莫大になり、厳しい現実に直面している。県単事業でもよいので、重心のグループホーム建設補助へのご理解とご配慮をお願いしたい。 					
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・多方面からのグループホームの情報をもとに、今後のあり方のヒントを得る機会とすることができた。 					
次 回	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回は、グループホーム世話人学習会を開催予定。詳細は後日お知らせする。 ・開催に先立ち、世話人の皆様に事前アンケートを予定している。ぜひご協力をお願いします。 					

25年度 自立支援協議会議事録

会議	部会名	第2回 グループホーム・ケアホーム 部会	参加者数	30人	会場	福祉まちづくりセンター
	日時	25年 11月 20日 (水) 13:30 ~ 15:30				2F 大会議室
主 題 マ	<p>1 グループトーク：テーマ ～聴こう、世話人さんの生の声、語り合おう、今後の支援～</p> <p>2 グループごとの発表と総評</p>					
主 な 意 見 な ど	<p>1 について</p> <p>(1) アイスブレイク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊張をほぐし、グループワークに臨むウォーミングアップエクササイズを実施。 <p>(2) グループに分かれてのテーマ別トーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケートをもとに、1グループ6～8名程度、4グループ構成で、テーマ別グループワークを実施。 ・進め方の説明(竹澤部会長)。 ・各グループごと、司会者の進行により、話し合いとワークを実施。 <p>2 について</p> <p>(1)グループごとの発表の概要(凡例： 課題 解決策)</p> <p>1班 テーマ：「利用者同士の関係調整」</p> <p>入居者同士の見えづらいつい微妙な人間関係への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者間のライバル意識やランク付けの存在。金銭貸し借りや食事のトラブルへの対処方法は？ ・利用者同士の心が通じ合える方途について。 <p>入居者の訴えや言い分を答えを出さずに傾聴する。けじめのある関係づくりの構築、病院など専門機関のアドバイスを参考にしたり、ミーティングを活用した当事者同士の意見交換の場を大切にする。</p> <p>2班 テーマ：「利用者などからの思いの聴き取り」</p> <p>利用者さんの要望を踏まえた接し方に対する苦悩</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者さんのわがままや無理難題、多忙時の対応や接し方、要求の優先順位等、どうしたらよいか。 <p>ミーティングを活用し悩みを共有し、連携する。男性の世話人を入れる。リーダー的存在の方の助けを借りたり、利用者さんの機嫌がよいときに積極的に声かけを行う。</p> <p>3班 テーマ：「世話人同士の連携」</p> <p>世話人の価値観や意見の相違、仕事の範囲などについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世話人一人一人の利用者への評価や見方が異なる。それによる対応の違いも存在する。 ・どこまでが仕事なのか。家族とのつきあい方や世話人同士の話し合いの場をどう構築していくか。 <p>多様なとらえ方があることをプラスに考え、違いを受け入れ、みなで議論し深めていく。日常生活に必要な業務を上手に分担する。世話人会の場では必ず全員が発言する。学習会や家族会も開催する。</p> <p>4班 テーマ：「健康管理・服薬対応・食事管理・緊急時対応」</p> <p>SOSが出せない方の体調管理、薬の管理、生活の管理、食事や感染症対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己表現が難しい方の体調把握や服薬対応、生活リズムの組み立てや室温等の管理、緊急時対応はどうあるべきか。病気と食生活の管理や好き嫌いへの対応、感染症対応のあり方について。 <p>医療機関や福祉の専門家との連携を図り、バックアップ支援体制を整える。世話人会や連絡帳等の活用、また、サービス管理責任者にも話を伝える等、情報共有を大切にする。</p> <p>(2)総評(辰野アドバイザーより)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合うことは非常に重要。どのグループも盛り上がり、活発な意見交換ができていた。 ・皆さんの表情がとても生き生きしていた。グループで1つの作品を作り上げる協働作業が充実していた。 ・模造紙発表の際、テーマの明示は必須。後で見返したとき、何の議論だったか一目瞭然である。 ・1班の作品は、テーマごとにポイントが文章化されて要約できていた。バランスよく見やすく美しい仕上がりになっていた。ただ付箋を貼るだけでなく、文章化した要約まで活動を展開できたことが、素晴らしい。 ・2班は、テーマが記載されており、分かりやすい。リーダーがいるとうまくいくという話の前提として、ヨコの連携の必要性、また男性世話人の少なさ等、グループホームの運営課題にも触れる発表となっていた。 ・3班は、家族対応について触れており、世話人さんの仕事の領域の広さと深さを感じた。価値観の違いをプラスにとらえ、チームで仕事をする視点や全員が発言できる連絡会などの提案、新設されるグループホーム「もみじの家」の船出を応援する形で作品がまとめられていたことも素晴らしい。 ・4班のテーマは対象が広く、難しい課題だったが、思いを言葉にできない人のニーズの捉え方や緊密な連携の中で仕事をしていくことが、緊急時対応や危機管理に役立つことを考えさせられた。 ・本日のグループワークで得たものを明日からの仕事にぜひ活かしていただきたい。 					
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークという協働作業を通して、みなで悩みを語り合い、明日からの支援につながる情報の共有を図ることができた。 					
次 回	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回は、1月下旬ないしは2月上旬に開催予定。 ・テーマは、グループホームの安全や防災管理についてを予定している。 					

25年度 自立支援協議会議事録

会議	部会名	第3回 グループホーム・ケアホーム 部会	参加者数	22人	会場	福祉まちづくりセンター 2F 大会議室
	日時	26年 2月 13日(木) 13:30 ~ 15:30				
主 題 マ	1 災害・防災対策について(講話) 2 グループホーム・ケアホーム一元化について(情報提供) 3 1年間の振り返り・来年度への要望など(意見交換) 4 その他					
主 な 意 見 な ど	1 について(伊那消防署 予防課より) 伊那消防署よりグループホーム・ケアホームの火災予防を中心とした講話があった。概要は次のとおり。 (1)はじめに ア 消火器について 耐用年数は8~10年。古いものは必ず買い換えてほしい。家庭用も同様。 イ 住宅用火災警報器の設置について 寝室設置は義務化されている。台所も設置が望ましい。 (2)火災が起きやすい状況 ア ゴミ屋敷(整理整頓ができていない家屋) 整理整頓・清潔・清掃を常に心がけること。 イ いつもと違うことをしたとき 人事異動、新入居者の受け入れ、暖房の使い始め、改修工事中等。 ウ 危ないこと、やってはいけないことをしたとき 強風時土手焼き、ゴミ焼き、揚げ物中の長電話等。 (3)消防訓練・避難訓練について ・消防法では、避難訓練は年2回以上行わなければならないとされている。 ・毎年同じ設定でお決まりの訓練を行っても意味がない。いろいろな想定でさまざまな訓練を組み合わせる実施することが大切。時期や日時、職員が手薄なときなどあらゆる事態を想定して実施してほしい。 ・共助から自助。防災から減災へ。3.11大震災を教訓に訓練のあり方も変わってきている。 (4)防火・防災の考え方 ・人命を守るために、コストはかかってもリスクを減らし、少しでも安心して暮らせる施設を目指してほしい。 ・消火器よりもスプリンクラー。消火器も1台よりは、2台、3台あった方が安全。多いに越したことはない。 ・消防設備の使い方は、点検時に業者に使用方法を質問するなどして確認してほしい。 (5)防火管理者について ・責務は、消防訓練の実施と消防設備の維持管理。火災の場合、責任が問われるのは防火管理者。 ・訓練を自ら主体的に計画・実施し、自分たちの施設は自分たちで守るという姿勢が大切である。 (6)その他 ・職員には、消防が到着するまでは応急消火義務者としての責務が課せられる。通報したらOKではない。 ・訓練は失敗してもよい。失敗から学び、考える。一番最悪の事態を想定し、人命第一で考えてほしい。					
	2 について(きらりあ 埋橋専門幹より) ・一元化後のグループホームにおける介護サービス提供については、グループホーム事業者が自ら行うか、手配のみ行い、外部居宅介護事業所等に委託するか、いずれかの形態を選択できるしくみとなる模様。 ・サテライト型住居は、グループホームの支援を受けながら一般のアパートなどに居住するもので、住居はグループホーム運営者が調達する。また、個別支援計画もサービス管理責任者が立案し、支援していく。 ・2月下旬から3月上旬にかけて詳しい説明会が予定されているので、詳細は説明会で確認してほしい。					
	3 について(参加者全員より) ・グループホームと医療との連携について、総合病院との連携も含めて学びや意見交換ができることよい。 ・第2回の世界人同士のグループワークは大変勉強になった。来年度もぜひ続けてほしい。 ・他所のグループホーム見学、引き続き情報提供や情報共有、意見交換をお願いしたい。 ・災害時の取り組みや、3.11大震災のとき、実際はどうだったのかといった話が聞きたい。 ・非常災害時マニュアルの整備や避難訓練の工夫、課題などの情報交換が行えたらと思う。 ・グループホーム立ち上げ時に支援グループのような組織を部会として設置していただけるとありがたい。					
	4 について ・パンセの会より、重度心身障害者のグループホーム設置に向けての動きについて報告があった。 ・聴覚障害者のグループホーム「もみじの家」が4月からスタートする。 ・伊那養護学校では、高等部2年生で、卒業後グループホーム入居希望者がいる。学校へも情報提供を。					
ま と め	・防火・防災に関する講話を通して、グループホームの安全管理について考えることができた。 ・グループホーム一元化等の情報共有を図るとともに、来年度への要望などを話し合うことができた。					
次 回	・今年度は3回の部会を開催してきた。多くのみなさんのご参加、ありがとうございました。 ・来年度も引き続き積極的なご参加をよろしく願いいたします。					